

【安藤昌益研究の最前線（その15）】

安藤昌益の真営道医学を伝承した江戸の町医・

川村真斎による処方収集書『真斎聚方』における

「本草之部 附方」の処方群〔【X】＝No.210～333〕は、

『本草綱目』の【附方】からの記載であることの考証、

および『真斎聚方』の全体的な構成について

——【X-5】『真斎聚方』〔No.266～281〕

〔『本草綱目』卷二十二〔穀部〕～卷二十六〔菜部〕〕

——さらに、真斎の「筆写・抄出方法」から

『真斎謾筆』と稿本『自然真営道』との

内容的同一性について考える

和田耕作

（KOSAKU WADA）

安藤昌益の真営道医学を継承した川村真斎（1785～1852）による処方収集書『真斎聚方』（内藤記念くすり博物館蔵本）は、浩瀚な著作である。

本稿では、本誌「PHN」35号に引き続いて、No.115以降の処方群と、それらに関連すると思われる『名家方選』三部作の処方群についての考証と考察を進める予定であったが、今回は、急遽予定を変更して、『真斎聚方』の「最終見出し」であるところの「本草之部 附方」〔No.210～333〕についての考証と考察を行うことにした。

「本草之部 附方」は、それまでの記述とは、大きく異なっており、その「出典」書目数も膨大であり、何による記載であるのかが、これまで不明であった。それは、『真斎聚方』における「最後の難関」と思われた。

しかし、実際に調査をしてみると、この問題は、意外にもすぐさま解決したのである。すなわち、「本草之部 附方」は、『本草綱目』の【附方】などからの記載であることが、このたび明らかとなった。

『本草綱目』は、各薬物などを、

【釈名】【集解】【正誤】【修治】【気味】【主治】【發明】【附方】

の八項目にわけて記述している。

真斎は、最後の【附方】の処方群の中からを選んで記載していることが明らかになった。一部には、【發明】や【修治】の項目からも記載しているところもある。

『真斎聚方』「本草之部 附方」には、『本草綱目』の書名も、処方のある巻数や「薬物名」などの項目も記されていない。したがって、本稿では【附方】などのある『本草綱目』の巻数や分類項目、さらには「薬物名」などをも示して、『真斎聚方』「本草之部 附方」の内容構成が明確となるように記述することとした。

今回は、その第5回目であり、【X-5】『真斎聚方』〔No.266～281〕まで、すなわち、『本草綱目』の卷二十二〔穀部〕～二十六〔菜部〕に相当する部分である。

◎・『真斎聚方』の全体的構成について・◎

このたび、「本草之部 附方」の「出典」が判明したことにより、『真斎聚方』の全体的な構成を、次のように把握することができるようになった。

▼【第一部】・・・『真斎聚方』・「第一編」▼

・『真斎聚方』〔No.1～36〕

・この巻頭部分は、『類聚方集覧』などから記載によるものであり、おもに『真斎方記』へと増補されるところのものである。

〔『PHN』32号（2018年8月号）を参照〕

▼【第二部】・・・『真斎聚方』・「第二編」▼

・『真斎聚方』〔「A」＝No.37～115〕＋〔「B」＝No.116～209〕

・次は、各医書群と『名家方選』三部作からの処方群である。

〔「A」については、『PHN』33号（2018年9月号）～35号

（2018年11月号）を参照。〕

〔「B」については、今後、考証の予定であるが、その一部である安藤昌益と山脇東洋の処方群については、『PHN』30号（2018年4月号）・31号（2018年5月号）を参照のこと。〕

・この「第二編」については、考証をさらに進めた上で、その構成について再考する予定である。

▼〔第三部〕・・・『真斎聚方』・「第三編」▼

・『真斎聚方』〔「A」=No.210～281〕+〔「B」=No.281～333〕・

・『真斎聚方』の「第三編」と言える「本草之部 附方」は、このたび『本草綱目』【附方】などからの記載であることが明らかになったのである。

・『真斎聚方』の「本草之部 附方」は、分量的には、『真斎聚方』の中の三分の一を超えており、上記の「第一編」と「第二編」を合わせて、仮に『真斎聚方』の「前編」とすれば、明らかに『真斎聚方』の「後編」と呼んでよいものである。

〔「A」については、『PHN』36号・(2019年1月号)～『PHN』40号（2019年5月号）を参照のこと〕

〔「B」については、今後、考証の予定である。〕

●・【出典】の考証のための文献一覧・●

・『新註校定・国譯本草綱目』（第七冊）〔穀部・菜部〕

（昭和50年4月、新註増補版、春陽堂書店刊）〔和田文庫蔵〕

〔以下、『国訳本草綱目』（第七冊）と略記する。〕

・〔明〕李時珍『本草綱目』（全二冊）

（1986年5月、商務印書館香港分館刊）〔和田文庫蔵〕

・『補註・本草綱目』（上巻、多紀安元遺稿、多紀鶴郎・永島忠共纂）

（大正四年十月、半田屋医籍商店刊）〔和田文庫蔵〕

・『補註・本草綱目』（下巻ノ一、多紀安元遺稿、多紀鶴郎・永島忠共纂）

▼凡例▼

.....

○ [金] ○ [『本草綱目』の薬物名]

【附方】 (No.210) [『真斎聚方』におけるNo.]

[1/5] [『本草綱目』の5処方の中の1処方を記載]

・ 「軽粉破口」 「外台」 [A] [外台秘要] [B]

[A] = 『真斎聚方』における略書名。

[B] = 『本草綱目』を参照したわかりやすい書名。

.....

・ 「▲」は、『真斎聚方』に出典が欠落しているもの。

・ 「——」は、『本草綱目』に出典の記載なきもの。

.....

◎・『真斎聚方』「本草之部 附方」の処方群の「出典」

である『本草綱目』【附方】との考証と考察・◎

.....

▼《I.》▼

▼『本草綱目』卷二十二「穀部」・・・「穀之一」（麻麦稻類）より▼

.....

○ [胡麻] ○ [『国訳本草綱目』（第七冊、p.1）]・

○○ [白油麻] [『国訳本草綱目』（第七冊、p.9）]・

【附方】 (No.266) [5/31]

・ ①「熱淋茎痛」 「聖恵」 [聖恵方]

・ ②「頭面諸瘡」 「普濟」 [普濟方]

・ ③「小兒瘰癧」 「簡便」 [簡便方]

・ ④「婦人乳少」 「唐氏」

・ ⑤「湯火傷灼」 「外台」 [外台秘要]

○○ [胡麻油（香油）] [『国訳本草綱目』（第七冊、p.15）]・

【附方】 (No.266~267) [10/36]

・ ①「解河豚毒」 「易簡」 [易簡方]

- ・②「解砒石毒」・・・・・・・・・・「衛生」〔衛生方〕
- ・③「大風熱疾」・・・・・・・・・・「図経」
- ・④「髮落不生」・・・・・・・・・・「普濟」〔普濟方〕
- ・⑤「令髮長黑」・・・・・・・・・・「普濟」
- ・⑥「滴耳治聾」・・・・・・・・・・「総録」
- ・⑦「蚰蜒入耳」・・・・・・・・・・「図経」

・「李元淳尚書・・・」の文が省略されている。症例文のためであ
ろう。

- ・⑧「蜘蛛咬毒」・・・・・・・・・・「普濟」〔普濟方〕
- ・⑨「冬月唇裂」・・・・・・・・・・「相感」〔相感志〕
- ・⑩「身面白癩」・・・・・・・・・・「千金」〔千金方〕

○〔大麻〕○・・・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.26）〕・

○○〔麻黄〕・・・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.31）〕・

【附方】・・・・・・・・（No.267）〔1／1〕

- ・①「風顛百病」・・・・・・・・・・「千金」〔千金方〕

○〔麻仁〕・・・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.32）〕・

【附方】・・・・・・・・（No.267）〔3／38〕

- ・①「耐老益氣」・・・・・・・・・・「▲」〔薬性論〕
- ・②「産後秘塞」・・・・・・・・・・「本事」〔本事方〕
- ・③「大風癩疾」・・・・・・・・・・「聖恵」〔聖恵方〕

○〔小麦〕○・・・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.41）〕・

○○〔小麦〕・・・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.42）〕・

【附方】・・・・・・・・（No.267～268）〔4／7〕

- ・①「消渴心煩」・・・・・・・・・・「心鏡」
- ・②「老人五淋」・・・・・・・・・・「奉親」〔奉親書〕
- ・③「項下瘰氣」・・・・・・・・・・「小品」
- ・④「白癩風癬」・・・・・・・・・・「正伝」〔医学正伝〕

○○〔麦麴〕・・・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.45）〕・

【附方】・・・・・・・・（No.268）〔1／7〕

- ・①「諸種癰痕」・・・・・・・・・・「総録」

○○〔麴〕・・・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.46）〕・

【附方】・・・・・・・・（No.268）〔9／28〕

- ・①「咽喉腫痛」・・・・・・・・・・「普濟」〔普濟方〕
- ・②「婦人吹奶」・・・・・・・・・・「聖恵」〔聖恵方〕
- ・③「乳癰不消」・・・・・・・・・・「聖恵」

・④「折傷瘀損」・・・・・・・・「——」

・末尾に「一説 以姜汁調傳之 以帛〔紙〕覆之 妙也」との、
真齋の按文がある。

・⑤「火療成瘡」・・・・・・・・「千金」〔千金方〕

・⑥「白禿頭瘡」・・・・・・・・「普濟」〔普濟方〕

・⑦「小兒口瘡」・・・・・・・・「普濟」

・⑧「婦人斷產」・・・・・・・・「——」

・⑨「癰疽出汗」・・・・・・・・「千金」〔千金方〕

○〔大麦〕○・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.54）〕・

【附方】・・・・・・・・（No.268）〔3／9〕

・①「麥芒入目」・・・・・・・・「孫真」〔孫真人方〕

・②「被傷腸出」・・・・・・・・「千金」〔千金方〕

・③「卒患淋痛」・・・・・・・・「聖恵」〔聖恵方〕

○〔蕎麦〕○・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.63）〕・

【附方】・・・・・・・・（No.268～269）〔13／16〕

・①「欬嗽上氣」・・・・・・・・「儒門」〔儒門事親〕

・②「男子白濁」・・・・・・・・「——」

・③「赤白帶下」・・・・・・・・「——」

・④「癰疽發背」・・・・・・・・「直指」〔直指方〕

・⑤「瘡頭黒凹」・・・・・・・・「直指」

・⑥「痘瘡潰爛」・・・・・・・・「痘疹」〔痘疹方〕

・⑦「湯火傷灼」・・・・・・・・「奇效」〔奇效方〕

・⑧「蛇盤瘰癧」・・・・・・・・「阮氏」〔阮氏方〕

・⑨「積聚敗血」・・・・・・・・「多能」〔多能鄙事〕

・⑩「頭風風眼」・・・・・・・・「——」

・⑪「染髮令黒」・・・・・・・・「普濟」〔普濟〔方〕〕

・⑫「絞腸沙痛」・・・・・・・・「簡便」〔簡便方〕

・⑬「小腸疝氣」・・・・・・・・「集效」〔集效方〕

○○〔稽〕・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.68）〕・

【附方】・・・・・・・・（No.269）〔1／2〕

・①「噎食」・・・・・・・・「海上」〔海上方〕

○〔苦蕎麦〕○・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.69）〕・

【附方】・・・・・・・・（No.269）〔1／1〕

・①「明目枕」・・・・・・・・「雜興」〔鄧才雜興〕

○〔稻〕○・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.70）〕・

○○〔稻稈・稻稈〕・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.78）〕・

【附方】・・・・・・（No.269）〔1／9〕

・①「解砒石毒」・・・・・・「摘要」〔医方摘要〕

○〔粳〕○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.80）〕・

○○〔浙二泔〕・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.87）〕・

【附方】・・・・・・（No.269）〔2／4〕

・①「鼻上酒●（ヤマイダレに査）」・・「要訣」〔証治要訣〕

・②「服薬過剂」・・・・・・「外台」〔外台秘要〕

●【考察1】●

一部が省略されている処方もあるが、その他は基本的に原文に忠実な記載である。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

▼《Ⅱ．》▼

▼『本草綱目』卷二十三「穀部」・・・・「穀之二」（稷粟類）より▼

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

○〔稷〕○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.91）〕・

○○〔稷米〕・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.95）〕・

【附方】・・・・・・（No.269）〔1／4〕

・①「辟除瘟疫」・・・・・・「肘后」〔肘后方〕

○〔黍〕○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.97）〕・

○○〔丹黍米〕・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.102）〕・

【附方】・・・・・・（No.270）〔3／4〕

・①「小兒驚口」・・・・・・「子母」〔子母秘録〕

・②「飲酒不酔」・・・・・・「萬畢」〔萬畢術方〕

・③「令婦不妬」・・・・・・「萬畢」

○〔粱〕○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.108）〕・

○○〔青粱米〕・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.112）〕・

【附方】・・・・・・（No.270）〔1／4〕

・①「一切毒薬」・・・・・・「外台」〔外台秘要〕

○〔粟〕○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.114）〕・

○○〔粟米〕・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.116）〕・

【附方】・・・・・・（No.270）〔4／9〕

・①「小兒重舌」・・・・・・「秘録」〔秘録〕

- ・②「雑物昧目」・・・・・・「総録」〔総録〕
- ・③「湯火傷灼」・・・・・・「纂要」〔崔行功纂要〕
- ・④「熊虎爪傷」・・・・・・「葛氏」〔葛氏方〕
- 〔薏苡仁〕○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.136）〕・
- 〔薏苡仁〕・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.138）〕・
- 【附方】・・・・・・（No.270）〔1／14〕
- ・①「消渴飲水」・・・・・・「——」
- 〔根〕・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.143）〕・
- 【附方】・・・・・・（No.270）〔3／4〕
- ・①「蛔虫心痛」・・・・・・「梅師」
- ・②「経水不通」・・・・・・「▲」〔海上方〕
- ・③「牙齒風痛」・・・・・・「延年」〔延年秘録〕
- 〔罌子粟〕○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.144）〕・
- 〔殼〕・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.147）〕・
- 【附方】・・・・・・（No.270）〔2／8〕
- ・①「久嗽不止」・・・・・・「危氏」〔危氏方〕
- ・②「久欬虚嗽」・・・・・・「宣明」〔宣明方〕
- 〔阿芙蓉〕○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.150）〕・
- 【附方】・・・・・・（No.270～271）〔2／4〕
- ・①「赤白痢下」・・・・・・「——」
- ・後半の「一方・・」の文に傍線を引き、強調している。
- ・②「一粒金丹」・・・・・・「医鑑」〔龔雲林医鑑〕
- ・原文は長文であるにもかかわらず、すべてを記載している。

●【考察2】●

最後の長文の処方も、そのすべてを忠実に記載している。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

▼《Ⅲ.》▼

▼『本草綱目』卷二十四「穀部」・・・・「穀之三」（菽豆類）より▼

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

○〔大豆〕○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.153）〕・

【附方】・・・・・・（No.271～272）〔20／66〕

・①「卒然失音」・・・・・・・・「——」

・出典として、「普濟」とあるが、これは、この次にある処方「熱毒攻眼」の出典である。

・②「卒風不語」・・・・・・・・「肘后」〔肘后方〕

・③「喉痺不語」・・・・・・・・「千金」〔千金方〕

・『本草綱目』では、②、③、①の順番である。

・④「卒然腰痛」・・・・・・・・「延年」〔延年秘録〕

・⑤「脚氣衝心」・・・・・・・・「廣利」〔廣利方〕

・⑥「新久水腫」・・・・・・・・「范汪」〔范汪方〕

・⑦「解礬砒毒」・・・・・・・・「肘后」〔肘后方〕

・⑧「酒食諸毒」・・・・・・・・「廣記」

・⑨「解諸魚毒」・・・・・・・・「衛生」〔衛生方〕

・⑩「解巴豆毒」・・・・・・・・「肘后」〔肘后方〕

・⑪「湯火灼傷」・・・・・・・・「秘録」〔子母秘録〕

・⑫「折傷墮墜」・・・・・・・・「千金」〔千金方〕

・⑬「腕瘡煩躁」・・・・・・・・「子母」〔子母秘録〕

・⑭「痘瘡濕爛」・・・・・・・・「——」

・⑮「小兒頭瘡」・・・・・・・・「普濟」〔普濟方〕

・⑯「染髮令烏」・・・・・・・・「千金」〔千金方〕

・⑰「疫癘發腫」・・・・・・・・「——」

・『本草綱目』では、⑦より二つ前にある処方である。

・⑱「辟穢時氣」・・・・・・・・「領要」

・⑲「胞衣不下」・・・・・・・・「産書」

・『本草綱目』では、⑱の前にある処方である。

・⑳「肝虚目暗」・・・・・・・・「龍木」〔龍木論〕

○○〔豆葉〕・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.168）〕・

【附方】・・・・・・・・（No.272）〔1／2〕

・①「小便血淋」・・・・・・・・「聖恵」〔聖恵方〕

○〔赤小豆〕○・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.172）〕・

【附方】・・・・・・・・（No.272～273）〔10／37〕

・①〔「水氣腫脹」〕・・・・・・・・「——」

・処方名「水氣腫脹」が欠落している。

・最初の「頌曰・・」の文が省略されている。

・「韋宙独行方・・」「梅師・・」の二つの文は、そのまま記載されている。

・②「水虫腹大」・・・・・・・・「肘后」〔肘后方〕

- ・③「中酒嘔逆」・・・「食鑑」〔食鑑本草〕
- ・④「乳汁不通」・・・「産書」
- ・⑤「婦人乳腫」・・・「梅師」
- ・⑥「癰疽初作」・・・「小品」〔小品方〕
- ・⑦「石癰諸癰」・・・「范汪」〔范汪方〕
- ・⑧「痘後癰毒」・・・「——」
- ・⑨「頤頰熱腫」・・・「——」
- ・⑩「六畜肉毒」・・・「千金」〔千金方〕

〇〇〔葉〕・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.180）〕・

【附方】・・・（No.273）〔1／2〕

- ・①「小兒遺尿」・・・「千金」

〇〔腐婢〕〇・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.181）〕・

【附方】・・・（No.273）〔2／2〕

- ・①「飲酒不醉」・・・「千金」
- ・②「疔瘡惡腫」・・・「普濟」〔普濟方〕

〇〔綠豆〕〇・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.184）〕・

【附方】・・・（No.273）〔5／10〕

- ・①「消渴飲水」・・・「普濟」〔普濟方〕
- ・②「老人淋痛」・・・「養老」〔養老書〕
- ・③「心氣疼痛」・・・「——」
- ・④「十種水氣」・・・「朱氏」〔朱氏集驗方〕
- ・⑤「扁鵲三豆飲」・・・「——」

・末尾にある「一方・・・」の文も原文のものである。

・『本草綱目』では、⑤、②、①、③、④の順番である。

〇〇〔綠豆粉〕・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.188）〕・

【附方】・・・（No.273～274）〔6／12〕

- ・①「解燒酒毒」・・・「——」
- ・②「解鴆酒毒」・・・「——」
- ・③「解砒石毒」・・・「易簡」〔衛生易簡〕
- ・④「解諸藥毒」・・・「易簡」〔衛生易簡方〕
- ・⑤「打撲損傷」・・・「澹寮」〔澹寮方〕
- ・⑥「杖瘡疼痛」・・・「生々編」〔生生編〕

〇〔豌豆〕〇・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.195）〕・

【附方】・・・（No.274）〔1／3〕

- ・①「霍乱吐利」・・・「聖恵」〔聖恵方〕

〇〔菹豆〕〇・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.202）〕・

〇〇〔白扁豆〕・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.204）〕・

【附方】・・・（No.274）〔7／9〕

- ・①「消渴飲水」・・・「仁存」〔仁存堂方〕
- ・②「毒藥墮胎」・・・「永類方」
- ・③「中砒霜毒」・・・「永類方」
- ・④「六畜肉毒」・・・「事林」〔事林廣記〕
- ・⑤「諸鳥肉毒」・・・「事林」
- ・⑥「惡瘡癩痒」・・・「肘后」〔肘后方〕
- ・⑦「赤白帶下」・・・「——」

・『本草綱目』では、②の前にある処方である。

●【考察3】●

処方の順番が入れ替わっているところが多い。処方名「水氣腫脹」が欠落している。その他、一部の省略も見られる。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

▼《IV.》▼

▼『本草綱目』卷二十五「穀部」・・・「穀之四」（造醸類）より▼

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

○〔大豆鼓〕○・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.213）〕・

【附方】・・・（No.274）〔1／49〕

- ・①「辟除温疫」・・・「梅師」

○〔豆腐〕○・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.224）〕・

【附方】・・・（No.274）〔1／4〕

- ・①「燒酒醉死」・・・「——」

○〔陳●〔「𥽿」の中に「稟」〕米〕○・・・

・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.226）〕・

【附方】・・・（No.274）〔1／5〕

- ・①「諸般積聚」・・・「百一」〔百一選方〕

○〔蒸餅〕○・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.245）〕・

【附方】・・・（No.274）〔1／6〕

- ・①「湯火傷灼」・・・「肘后」〔肘后方〕

○〔飴餠〕○・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.262）〕・

【附方】・・・（No.274～275）〔6／11〕

- ・①「瘰癧毒瘡」・・・「千金」〔千金方〕
- ・②「誤吞稻芒」・・・「簡便方」

・「誤吞稻芒」とあるが、この解説文は、二つ後の「誤吞錢釵」

〔外台秘要〕のものである。単純な転記ミスであろう。

・③「服藥過劑」・・・・・・・・・・「千金」

・④「草烏頭毒」・・・・・・・・・・「總錄」

・⑤「手足●〔疔の中に髑〕瘡」・・・・・・「千金」

・⑥「火燒成瘡」・・・・・・・・・・「小品」〔小品方〕

○〔醬〕○・・・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.267）〕・

【附方】・・・・・・・・（No.275）〔1／6〕

・①「解輕粉毒」・・・・・・・・・・「集簡」〔集簡方〕

○〔醋〕○・・・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.272）〕・

【附方】・・・・・・・・（No.275）〔15／33〕

・①「腋下胡臭」・・・・・・・・・・「外台」〔外台〔秘要〕〕

・②「癰疽不潰」・・・・・・・・・・「▲」〔肘後方〕

・③「舌腫不消」・・・・・・・・・・「千金」〔千金方〕

・④「塞耳治聾」・・・・・・・・・・「千金」

・⑤「面●〔黒ヘンに曾〕雀卵」・・・・・・「肘后」〔肘后方〕

・⑥「中砒石毒」・・・・・・・・・・「廣記」

・⑦「蜈蚣咬毒」・・・・・・・・・・「篋中」〔篋中方〕

・⑧「蜘蛛咬毒」・・・・・・・・・・「篋中」

・⑨「諸虫入耳」・・・・・・・・・・「篋中」

・⑩「狼烟入口」・・・・・・・・・・「秘方」

・⑪「足上凍瘡」・・・・・・・・・・「——」

・⑫「胎死不下」・・・・・・・・・・「子母」〔子母秘録〕

・⑬「胞衣不下」・・・・・・・・・・「聖恵」〔聖恵方〕

・⑭「乳癰堅硬」・・・・・・・・・・「千金」

・⑮「疔腫初起」・・・・・・・・・・「——」

○〔酒〕○・・・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.279）〕・

【附方】・・・・・・・・（No.275）〔3／17〕

・①「蛇咬成毒」・・・・・・・・・・「▲」〔廣利方〕

・②「蜘蛛瘡毒」・・・・・・・・・・「▲」〔廣利方〕

・③「毒蜂螫人」・・・・・・・・・・「廣利」

○〔春杵頭細糠〕○・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.313）〕・

【附方】・・・・・・・・（No.275）〔2／2〕

・①「膈氣噎塞」・・・・・・・・・・「聖恵」〔聖恵〔方〕〕

・②「咽喉妨礙」・・・・・・・・・・「聖濟」〔聖濟總録〕

●【考察4】●

一部に単純な転記ミスが見られる。

▼《V.》▼

▼『本草綱目』卷二十六「菜部」・・・「菜之一」（葷辛類）より▼

○[韭] ○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.315）〕・

○○[韭子]・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.324）〕・

【附方】・・・・・・（No.276）〔3／7〕

・①「夢遺溺白」・・・・・・「蔵器」「聖恵」

・②「玉茎強中」・・・・・・「経験」「経験方」

・③「婦人帶下」・・・・・・「千金」「千金方」

○[葱] ○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.329）〕・

○○[葱茎白]・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.331）〕・

【附方】・・・・・・（No.276～277）〔10／43〕

・①「傷寒勞復」・・・・・・「千金」「千金方」

・②「卒中惡死」・・・・・・「▲」「崔氏纂要」

・③「脱陽危症」・・・・・・「華佗方」

・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.336）では、この処方「脱腸〔陽」

危症」と記載しているが、解説文に「陽氣即回」（陽氣が直ち

に回復する）とあるので、「脱陽氣の危症」と訳すべきで、「脱

腸」の記載は誤植であろう。

・④「卒心急痛」・・・・・・「瑞竹」「瑞竹堂方」

・⑤「腹皮麻痺」・・・・・・「危氏」「危氏方」

・⑥「小便閉脹」・・・・・・「本事」「本事方」

・⑦「大小便閉」・・・・・・「外台」「外台秘要」

・⑧「解金銀毒」・・・・・・「外台」

・⑨「腦破骨折」・・・・・・「肘后」「肘后方」

・⑩「自縊垂死」・・・・・・「——」

○○[葉]・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.339）〕・

【附方】・・・・・・（No.277）〔1／5〕

・①「代指毒痛」・・・・・・「千金」「千金方」

○○[汁]・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.341）〕・

【附方】・・・(No.277) [2/5]

・①「痔瘻作痛」・・・「唐仲举方」

・②「解鉤吻毒」・・・「千金」〔千金方〕

〇〇〔鬚〕・・・〔『国訳本草綱目』(第七冊、p.343)〕・

【附方】・・・(No.277) [1/1]

・①「喉中腫塞」・・・「杜壬」〔杜壬方〕

〇〔薤〕〇・・・〔『国訳本草綱目』(第七冊、p.348)〕・

【附方】・・・(No.277) [3/23]

・①「毒蛇螫傷」・・・「徐玉」〔徐玉方〕

・②「諸魚骨硬」・・・「葛洪方」

・出典に「范汪」とあるのは、二つ後の処方のもので、転記ミスである。

・③「咽喉腫痛」・・・「聖恵」〔聖恵方〕

〇〔蒜〕〇・・・〔『国訳本草綱目』(第七冊、p.356)〕・

【附方】・・・(No.277) [6/14]

・①「止截瘧疾」・・・「唐慎」〔唐慎微〕

・②「惡核腫結」・・・「肘後」〔肘後〔方〕〕

・③「五色丹毒」・・・「葛氏」

・④「小兒白禿」・・・「子母」〔子母秘録〕

・⑤「蛇蠍螫人」・・・「肘後」

・⑥「蜈蚣咬瘡」・・・「肘後」〔肘後方〕

〇〔葫〕〇・・・〔『国訳本草綱目』(第七冊、p.365)〕・

【附方】・・・(No.277) [3/47]

・①「魚骨硬咽」・・・「十便」〔十便良方〕

・②「牙齒疼痛」・・・「外台」〔外台秘要〕

・③「眉毛動搖」・・・「夏子益」〔夏子益奇疾方〕

〇〔藝薹〕〇・・・〔『国訳本草綱目』(第七冊、p.379)〕・

〇〇〔莖葉〕・・・〔『国訳本草綱目』(第七冊、p.381)〕・

【附方】・・・(No.277~278) [5/8]

・①「風熱腫毒」・・・「近効」〔近効方〕

・②「手足瘰癧」・・・「千金」〔千金方〕

・③「異疽似癰」・・・「千金」

・④「血痢腹痛」・・・「聖恵」〔聖恵方〕

・⑤「腸風下血」・・・「聖恵」

〇〇〔子〕・・・〔『国訳本草綱目』(第七冊、p.383)〕・

- 【附方】・・・・・・（No.278）〔2／12〕
- ・①「傷損骨折」・・・・・・「乾坤」〔乾坤秘鑑〕
 - ・②「湯火傷灼」・・・・・・「簡便」〔簡便單方〕
- 〔菰〕○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.385）〕・
- 〔莖葉〕・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.389）〕・
- 【附方】・・・・・・（No.278）〔1／3〕
- ・①「漆毒生瘡」・・・・・・「——」
- 〔子〕・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.390）〕・
- 【附方】・・・・・・（No.278）〔1／1〕
- ・①「酒醉不醒」・・・・・・「聖恵」〔聖恵方〕
- 〔芥〕○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.390）〕・
- 〔莖葉〕・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.393）〕・
- 【附方】・・・・・・（No.278）〔4／4〕
- ・①「牙齦腫爛」・・・・・・「——」
 - ・②「飛絲入目」・・・・・・「摘玄」〔摘玄方〕
 - ・③「漆瘡搔痒」・・・・・・「▲」〔千金方〕
 - ・④「痔瘡腫痛」・・・・・・「經效」〔談堊翁經效方〕
- 〔子〕・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.394）〕・
- 【附方】・・・・・・（No.278）〔6／23〕
- ・①「身体麻木」・・・・・・「濟生秘覽」
 - ・②「感寒無汗」・・・・・・「簡便」〔簡便單方〕
 - ・『本草綱目』では、②、①の順番である。
 - ・③「中風口禁」・・・・・・「聖恵」〔聖恵方〕
 - ・④「喉痺腫痛」・・・・・・「▲」〔聖恵方〕
 - ・「又用辣芥子」以下の文が省略されている。
 - ・⑤「耳卒聾閉」・・・・・・「外台」〔外台秘要〕
 - ・⑥「眉毛不生」・・・・・・「孫氏」〔孫氏集效方方〕
- 〔蕪菁〕○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.401）〕・
- 〔根葉〕・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.406）〕・
- 【附方】・・・・・・（No.278～279）〔4／12〕
- ・①「預禳時疾」・・・・・・「神仙教子法」
 - ・②「鼻中衄血」・・・・・・「十便」〔十便良方〕
 - ・③「大醉不堪」・・・・・・「肘後」〔肘後方〕
 - ・④「飲酒辟氣」・・・・・・「千金」〔千金方〕
- 〔子〕・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.408）〕・
- 【附方】・・・・・・（No.279）〔7／22〕

- ・①「服食辟穀」・・・・・・・・・・「図経」〔図経本草〕
- ・②「黄疸如金」・・・・・・・・・・「孫真人食忌」
- ・③「熱黃便結」・・・・・・・・・・「食療」〔食療本草〕
- ・④「骨疽不愈」・・・・・・・・・・「千金」〔千金方〕
- ・⑤「小兒頭禿」・・・・・・・・・・「千金」
- ・⑥「眉毛脱落」・・・・・・・・・・「聖恵」〔聖恵方〕
- ・⑦「面癰痣點」・・・・・・・・・・「聖恵」

○〔萊菔〕○・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.413）〕・

【附方】・・・・・・・・（No.279）〔5／23〕

- ・①「失音不語」・・・・・・・・・・「普濟」〔普濟方〕
- ・②「烟熏欲死」・・・・・・・・・・「珍注【發明】」
 - ・【發明】の項の「時珍」の注からの記載である。
- ・③「湯火傷灼」・・・・・・・・・・「聖濟」〔聖濟總録〕
- ・④「花火傷肌」・・・・・・・・・・「聖濟」
- ・⑤「打撲血聚」・・・・・・・・・・「邵氏」〔邵氏方〕

○○〔子〕・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.424）〕・

【附方】・・・・・・・・（No.279～280）〔6／16〕

- ・①「上気痰嗽」・・・・・・・・・・「▲」〔食医心鏡〕
- ・②「痰気喘息」・・・・・・・・・・「簡便」〔簡便單方〕
- ・③「久嗽痰喘」・・・・・・・・・・「医学」〔医学集成〕
- ・④「高年气喘」・・・・・・・・・・「濟生」〔濟生秘覽〕
- ・⑤「中気〔風〕口禁」・・・・・・・・「丹溪」〔丹溪方〕
- ・⑥「風秘気秘」・・・・・・・・・・「寿域」〔寿域神方〕

○〔生薑〕○・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.426）〕・

【附方】・・・・・・・・（No.280）〔11／50〕

- ・①「消渴飲水」・・・・・・・・・・「聖恵」〔聖恵方〕
- ・②「中諸藥毒」「獬犬傷人」・・・・「小品」〔小品方〕
- ・③「蝮蛇螫傷」・・・・・・・・・・「千金」〔千金方〕
- ・④「蜘蛛咬傷」・・・・・・・・・・「千金」
- ・⑤「刀斧金瘡」・・・・・・・・・・「扶寿」〔扶寿方〕
- ・⑥「閃折手足」・・・・・・・・・・「易簡」〔易簡方〕
- ・⑦「跌撲傷損」・・・・・・・・・・「易簡」
- ・⑧「百虫入耳」・・・・・・・・・・「易簡」
- ・⑨「腋下狐臭」・・・・・・・・・・「易簡」
- ・⑩「赤白癰風」・・・・・・・・・・「易簡」
- ・⑪「兩耳凍瘡」・・・・・・・・・・「暇日」〔暇日記〕

- 〔乾薑〕○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.438）〕・
- 【附方】・・・・・・（No.280）〔4／28〕
- ・①「陰陽易病」・・・・・・「類要」〔傷寒類要方〕
 - ・②「癰疽初起」・・・・・・「辨疑」〔諸症辨疑〕
 - ・③「獬犬傷人」・・・・・・「——」
 - ・④「蛇蠍螫人」・・・・・・「廣川」〔廣川方〕
- 〔胡荽〕○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.448）〕・
- 〔根葉〕・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.450）〕・
- 【附方】・・・・・・（No.280）〔1／9〕
- ・①「面上黒子」・・・・・・「小説」
- 〔藿香〕○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.466）〕・
- 【附方】・・・・・・（No.280）〔3／20〕
- ・①「腎消飲水」・・・・・・「保命」〔保命集〕
 - ・②「辟除口臭」・・・・・・「食医」〔食医心鏡〕
 - ・③「蛇咬久潰」・・・・・・「千金」〔千金方〕
- 〔羅勒〕○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.475）〕・
- 〔子〕・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第七冊、p.478）〕・
- 【附方】・・・・・・（No.281）〔1／2〕
- ・①「走馬牙疳」・・・・・・「活幼口議」

●【考察5】●

転記ミス、一部の文の省略、処方順序の違いも見られるが、その他は、原文どおりの記載である。

◎・むすび・◎

このたび、『真齋聚方』「本草之部 附方」の各処方が、『本草綱目』の各薬物の【附方】からの記載であることが判明したことにより、『真齋聚方』の全体的構成が、ここに初めて明らかになった。

そして、すでに述べたように、真齋は、『真齋聚方』「本草之部 附方」の各処方を、『本草綱目』の各薬物の【附方】の項から、基本的に「原文」そのままの内容で記載している。

それは、これまでの真齋の「筆写・抄出方法」を踏襲しているものである、と言えるであろう。

各処方の抄出については、真齋の臨床家としての必要性から選ばれたものと思われる。

『真齋聚方』「本草之部 附方」もまた、『本草綱目』の各薬物の【附方】の項から臨床的に参考となる処方群を抄出して、臨床研究に役立てるということが目標であった。その「按文」の一つひとつの内容が、それを物語っている。

いずれにしても、『本草綱目』の各薬物の【附方】を、これほど多く記載した真斎の研究態度には、感服せざるを得ない。

以上は、「第1回目の考証」における「むすび」であり、私はこの時点で『真斎聚方』『本草之部 附方』の全体的な評価を急ぐ必要はないと思う。その全体的な評価は、今後、さらなる「考証と考察」を進めてからでも十分であろう。

上記の「むすび」については、今回の「第5回目の考証」においても基本的には変わりはないと言えるであろう。今回は、上記の各【考察】に見られるように、処方の順番が入れ替わっているところがやや目立つが、省略・転記ミスなどは比較的少ない方である。

真斎が記載している処方群には、同名の処方も少なくない。このような処方記載の傾向を探ることは、真斎の医学的な関心を見る上にも大切なことがらである。

[2019年5月25日、PHN（思想・人間・自然）、第40号、PHNの会発行]

[2019年5月25日、和田耕作（C）、無断転載厳禁]
